

2026 年 9 月 25 日

I B C 岩手放送「民間放送ガバナンス指針」に基づく公表事項

基本理念

民間放送は、公共の福祉、文化の向上、産業と経済の繁栄に役立ち、平和な社会の実現に寄与することを使命としている。また、知る権利にこたえて健全な民主主義の発展に資することが民間放送の重要な職責である。この使命や職責を確実に果たすためには、放送の自主自律を堅持しつつ、人権尊重の徹底、法令や社会規範の遵守など、社会から信頼されるガバナンスを確立することが不可欠である。

IBC岩手放送は、民間放送の持続可能性を高めるために、民放連の示す基本原則に則り自ら体制等を整え、社会に説明する責任を果たしていくこととする。

<基本原則>

1. 公共性の発揮

- (1) 国民共有の財産である電波を預かって事業を展開していることを自覚し、公共の福祉の実現に寄与する。
- (2) 公正な報道を旨として、知る権利にこたえて健全な民主主義の発展に貢献する。
- (3) 放送法で求められている災害放送や視聴覚障害者向け放送を実施する。
- (4) 地域ジャーナリズムの担い手、地域の情報・文化センターとしての機能を果たす。

IBC岩手放送は、地域ジャーナリズムの担い手として、下記の企業理念のもとさまざまな形で地域情報発信・地域貢献に努めております。

企業理念

知る安心も、集う楽しさも。

岩手の毎日と一緒につくるメディアです。

行動指針

- 地域の判断に必要な情報を、迅速かつ正確に伝える
- 声なき声をすくい上げ、地域の対話を生み出す
- 東日本大震災の記憶を語り継ぎ、日常の延長として、防災・減災に取り組む
- 地域と連携し、課題解決の場をつくる

地域情報発信

自社制作番組

レギュラーで放送している・テレビ・ラジオの番組

テレビ番組

<https://www.ibc.co.jp/tv/>

ラジオ番組

<https://www.ibc.co.jp/radio/>

また、地域情報発信のために、特別番組を制作して放送しています。〔 2026 年度 〕

地域情報発信のための特別番組の例(テレビ)		
第 79 回盛岡市内一周継走大会 たすきと絆をつなぐ	5 月 4 日(月・祝) 10:50～11:20	伝統の一周継走大会を中学生たちの力走を中心に高校・一般の部までダイジェストで伝える。
ベルジョイスカップ第 49 回岩手県春のママさんバレーボール大会	5 月 10 日(日) 15:30～16:24	県内各地から 34 チームが参加。世代をこえた笑顔がコートにあふれる大会の様子をお送りする。
生中継！魅力発見 東北絆まつり 2026	5 月 24 日(日) 13:00～14:54	東北 6 県を代表するまつりが盛岡に集結！パレードの熱気などを伝える 2 時間の生放送。
令和 8 年春の藤原まつり	5 月 30 日(土) 16:30～16:54	奥州藤原氏が築いた平安の栄華を今に伝える祭りの様子を紹介。
地域情報発信のための特別番組の例(ラジオ)		
平泉ウォーク	5 月 31 日(日) 10:00～12:50	世界遺産平泉を、ラジオを聴きながら歩く
マチナカフェスタ (TOP40)	7 月 12 日(日) 13:00～16:30	IBCラジオの名物番組「IBC TOP40」の限定復活生放送

災害対応

地域の皆さんの安全を守るため、災害発生時や災害発生の恐れがある場合は、特別番組を編成したり、L字情報を放送するなどし、情報発信に努めております。〔2026年度〕

災害発生時や災害発生の恐れがあるときに放送した特別番組の事例		
4月20日(月)	地震(震度5弱) 津波警報	(テレビ)16:57から20:00まで放送したJNN報道特別番組内で全国中継の対応をするとともに、17:06から18:00、18:50から20:00はIBCローカルで津波警報速報番組を放送。20:00以降、20:43津波注意報に切り替わるまで、地図情報・L字情報で津波警報を放送しました。 (ラジオ)16:53:24緊急地震速報送出後、レギュラー番組を休止し、20:17:22まで地震情報を放送しました。 (WEB)IBCホームページのLIVE映像を各地の情報カメラに随時切り替え、IBCローカルの速報番組も一部放送しました。
4月20日(月)	北海道・三陸沖後発地震注意情報	報道グループの部員が7日間24時間体制で後発地震に備えました。
4月22日(水) 発生	大槌町山林火災	(テレビ)TBSや近隣系列局の応援も得ながら、鎮圧までの11日間ローカルニュースと全国ニュースで放送しました。全国ニュース、情報番組内での生中継が15回。全国ニュースへの送出が37回、ヘリによる空撮フライトが13回でした。ローカルニュースは定時ニュース、ニュースエコーで放送しました。 (ラジオ)随時、速報を放送しました。 (WEB)IBCホームページで、大槌町上空の空撮映像を生およびアーカイブ配信しました。現地の送信施設に延焼の恐れがあったため、ホームページと公式Xで当該地域のテレビ・ラジオ放送に障害が生じる恐れがあることを告知しました。
6月25日(木)	地震(震度5強)	JNN報道特別番組内でJR盛岡駅から2回、混雑の様子を全国中継で伝えました。

地域貢献のためのイベント等

【イベント／事業】2026 年度

●『みちのく潮風トレイル受入体制整備事業』(4 月～2027 年 3 月)

三陸復興国立公園を中心に延べ約 1000km を 1 本の道でつないだナショナルトレイルです。近年、急増する外国人ハイカーの地元での受入強化を目指し、自治体、地域事業者、NPO 等との官民連携の枠組みに参画しています。ガイド人材の育成や、地域の観光資源の磨き上げを通じて地域経済の活性化に取り組んでいます。



●『いわてゆめスポフェスタ』(5 月 5 日)

岩手県との共催事業として県内の小中学生 150 名を対象に、岩手出身の冬季五輪現役オリンピック 4 名を講師に迎えたイベントを企画・運営しました。オフシーズンの心身づくりの重要性を学ぶ機会を提供しました。トップアスリートとの交流を通じ、次世代を担う子どもたちの心と身体の育成に積極的に取り組んでいます。



●『東北絆まつり2026 in 盛岡』 運営業務(5 月 23 日～24 日)

東日本大震災からの復興と発展を願い、東北 6 県を代表する祭りが集結する一大イベントです。IBCは運営企業体の一員として、イベント運営からネット配信、テレビ生中継まで総合的に担いました。当日は 30 万人の来場者が生み出す熱気と感動を発信し、東北エリアの魅力向上とコミュニティ(絆)の深化に取り組みました。



●「MORIOKA マチナカフェスタ2026」(7月11日～12日)

■開催目的:盛岡市内中心部の活性化を目的に盛岡八幡宮境内にてIBCのテレビ・ラジオのコンテンツを活用したイベントを企画。2023年度から実施しています。また、地域イベントとの協働を図り、3週連続で同会場を活用することで中心市街地活性化の一助となることも狙いとしました。

■催事内容:飲食ブースの営業、IBCテレビコンテンツ 大型ビジョン放映、IBCグッズ販売
IBCテレビ生中継、ラジオ公開放送と公開収録

■来場者数:11日(土) 3,000人、12日(日) 2,000人 合計 5,000人

資料:イベントチラシとイベントの様子



アナウンサーが MC を務め人気 TV 番組の「あまたおしりゲーム」を開催。
来場者も参加して会場は大いに盛り上がりました。

●『IBCカップ 岩手県アマチュアゴルフトーナメント』(7月30日～31日)

今年で52回目を迎える岩手県で有数の歴史を誇るゴルフ大会です。県ゴルフ連盟や県内ゴルフ場の支配人らと強固な運営委員会を組織して運営しています。半世紀以上にわたりアマチュアスポーツ、生涯スポーツの振興に貢献しています。



●『芥見下々 呪術廻戦展』(9月12日～11月8日)

若年層を中心に絶大な支持を集める「呪術廻戦」の大型展示会です。疾走感あふれる物語が生まれた背景やデジタル技術を駆使した制作工程を作者の解説を交えて公開しています。質の高いエンタメ文化を地方都市でも体験できる場を創出し、文化振興と共に、多様な世代の交流の場づくりに取り組んでいます。

●「IBCまつり2026」(9月19日～20日)

■開催目的: 1986年10月「IBCラジオまつり」としてスタート。地域に根差した、身近な放送局としてリスナーに感謝の気持ちを込めて、入場無料で開催しました。1991年からは名称を「IBCまつり」に変更し、テレビ・ラジオの公開生放送や飲食ブースなどを設置し、例年多くの来場者でにぎわいます。その後規模を拡大し、43回目となる今年は「ワクワクがいっぱい」をコンセプトにツガワ未来館アピオ・岩手産業文化センターで開催しました。さらに今年は、地域の子どもたちを対象とした職業体験イベント、「いわてキッズおしごと探検隊」を初企画しました。地域企業や団体との交流を通じて地域活性化のほか、子どもたちが自分らしい未来を考えるきっかけ作りを目的としています。

■開催内容: テレビ・ラジオの公開放送、飲食ブース、出展社によるブース展開、お笑いライブと音楽ライブ、IBCグッズ販売、小学生対象の職業体験(同時開催)、ミルクフェア 2026 いわて(同時開催)、忍者ナイン体験会(同時開催)など

■来場者数: 19日 14,703人、20日 15,854人、計 30,557人



その他イベント情報の詳細

<https://www.ibc.co.jp/event/>

メディアリテラシーの向上（会社見学・職場体験）

県内の小中学校の教育活動の一環として職場体験学習の受け入れを行っています。放送の仕事を通じて、働くことの楽しさや厳しさを感じ取ってもらうことや、放送の仕組みを知ること、情報発信について考える機会を持ってもらっています。また、地域のシニア大学や支援学校の会社見学などを受け入れ、放送を身近に感じてもらうための活動も行っています。2025 年度は、延べ 15 団体、約 180 人が訪れました。

会社見学	参加者	人数
5 月 27 日	福祉団体	15
6 月 6 日	小学生	5
6 月 13 日	小学生	15
6 月 18 日	シニア団体	17
6 月 24 日	シニア団体	18
7 月 4 日	中学生	14
8 月 7 日	福祉団体	13
9 月 5 日	中学生	26
9 月 17 日	小学生	2
10 月 8 日	小学生	25
10 月 28 日	中学生	6
11 月 19 日	シニア団体	15

職場体験	参加者	人数
10 月 22 日	中学生	2
10 月 23 日	中学生	2
10 月 28 日	中学生	3

<基本原則>

2. 人権尊重の徹底

- (1) 事業活動全般において人権尊重を徹底する。
- (2) 人権が尊重される社内体制を構築して、継続的に改善を行う。

3. 法令や社会規範の遵守

- (1) 高い公共性が期待される放送事業者として、法令や社会規範を遵守する。
- (2) 役員・社員は高い倫理観と職業意識を養い、公正で透明な事業活動を行う。

人権方針

2025 年 11 月 代表取締役社長名で「IBC岩手放送人権方針」を策定。社員に人権尊重を徹底したほか、ホームページにも掲載してステークホルダーにも理解を求めています。

コンプライアンス

「IBC岩手放送コンプライアンス経営方針」「IBC岩手放送コンプライアンス憲章」を定め、社員はもとより関係者にもコンプライアンスの順守を求めています。

また、社長直属の組織として「コンプライアンス室」を置き、社員・その他労働者・関係者の相談窓口としています。また、社内では相談しにくい場合のために、社外にも相談窓口を設けて相談対応にあたっております。

毎年、全社員対象の「コンプライアンス研修」を実施しているほか、カスタマーハラスメント研修も実施し、「カスタマーハラスメント対策基本方針」を定め県民に理解を求めています。また、従業員がカスタマーハラスメントをしないよう指導を徹底しています。

IBC岩手放送人権方針

<https://www.ibc.co.jp/pdf/jinken.pdf>

IBC岩手放送コンプライアンス経営方針

IBC岩手放送コンプライアンス憲章

カスタマーハラスメント対策基本方針

<https://www.ibc.co.jp/about/compliance/>

放送倫理の徹底

IBC岩手放送放送基準を定め、番組品質の向上に努めております。

また、番組審議会では、放送した番組について諮問し、答申や意見をもとに、必要な措置を取っております。

IBC岩手放送放送基準

<https://www.ibc.co.jp/pdf/hosokijun.pdf>

IBC岩手放送番組審議会

開催状況(2025 年度)

第 699 回	2025 年 4 月 30 日	金 YO ! 瓦 BAN(テレビ番組)
第 700 回	2025 年 5 月 20 日	いわて見聞録 あの日から 14 年、父と子の「約束」(テレビ番組)
第 701 回	2025 年 6 月 17 日	よこっちピーマンの熱血ラジオ塾(ラジオ番組)
第 702 回	2025 年 7 月 23 日	IBCニュースエコー(テレビ番組)
第 703 回	2025 年 9 月 11 日	わが町バンザイ・葛巻町編(テレビ番組)
第 704 回	2025 年 10 月 22 日	いわて見聞録 クマと人間～境界の最前線～(テレビ番組)
第 705 回	2025 年 11 月 13 日	ラジオで、キミと大好きなアニメやまんがについて語ってみた。(ラジオ番組)
第 706 回	2026 年 1 月 28 日	新春お年玉クイズ！エモいわて～あの頃、みんなエモかった(テレビ番組)
第 707 回	2026 年 2 月 26 日	いわて見聞録～岩淵麗楽、冬のミラノ・コルティナに跳ぶ 雪の王国いわてに届ける金メダル～(テレビ番組)
第 708 回	2026 年 3 月 17 日	JNN4 局共同制作番組「見つめる先に、東日本大震災 15 年」(テレビ番組)

番組審議会

放送局は、放送番組の適正を図るために外部有識者の声を聴く場として番組審議会を設置しています。委員は、学識経験を有する方のなかから、テレビ局では7名以上、ラジオ局では5名以上を各放送局が委嘱します。

番組審議会の主な役割は、

▽放送局の諮問に応じ、放送番組の適正を図るため必要な事項を審議する、

▽放送局に対して意見を述べることで、番組審議会は放送局からの諮問事項に「答申」や「意見」を取りまとめ、放送局はそれらを尊重して必要な措置を講じます。

番組審議会では、具体的な番組の視聴・聴取も行われ、放送局は、そこで行われた議論や意見交換を、次の番組づくりに役立てています。

放送法（抜粋）

第六条

放送事業者は、放送番組の適正を図るため、放送番組審議機関（以下「審議機関」という。）を置くものとする。

- 2 審議機関は、放送事業者の諮問に応じ、放送番組の適正を図るため必要な事項を審議するほか、これに関し、放送事業者に対して意見を述べることができる。
- 3 放送事業者は、番組基準及び放送番組の編集に関する基本計画を定め、又はこれを変更しようとするときは、審議機関に諮問しなければならない。
- 4 放送事業者は、審議機関が第二項の規定により諮問に応じて答申し、又は意見を述べた事項があるときは、これを尊重して必要な措置をしなければならない。
- 5 放送事業者は、総務省令で定めるところにより、次の各号に掲げる事項を審議機関に報告しなければならない。
 - 一 前項の規定により講じた措置の内容
 - 二 第九条第一項の規定による訂正又は取消しの放送の実施状況
 - 三 放送番組に関して申出のあつた苦情その他の意見の概要
- 6 放送事業者は、審議機関からの答申又は意見を放送番組に反映させるようにするため審議機関の機能の活用努めるとともに、総務省令で定めるところにより、次の各号に掲げる事項を公表しなければならない。
 - 一 審議機関が放送事業者の諮問に応じてした答申又は放送事業者に対して述べた意見の内容その他審議機関の議事の概要
 - 二 第四項の規定により講じた措置の内容

第七条

放送事業者の審議機関は、委員七人（テレビジョン放送による基幹放送を行う放送事業者以外の放送事業者の審議機関にあつては、総務省令で定める七人未満の員数）以上をもつて組織する。

（以下、略）

IBC岩手放送番組審議会の議事録はこちら

<https://www.ibc.co.jp/about/discussion/>

<基本原則>

4. 透明性の向上

- (1) 社会全体がステークホルダーであるという放送事業の性格を踏まえて、企業経営にかかわる諸情報（企業理念、役員の構成、基本的な財務情報など）の積極的な開示を行い、透明性を向上する。
- (2) 自律が独善に陥らないように、幅広いステークホルダー（視聴者・リスナー、広告主、取引先、従業員、地域社会など）との対話の回路を強化する。

5. 適切な経営体制の確立

- (1) 取締役会は、株主からの負託にこたえて、関係者との取引関係も含めて適切な事業運営が行われるように業務執行を監督する。直接の業務執行を行わない社外取締役や監査役の役割は、特に重要である。
- (2) 会員社の代表者は、本指針適用の責任を担う。また、ガバナンス不全が疑われる重大な事案が発生した場合には、必要な情報開示を行いながら、信頼回復に向けた施策を積極的に講じる。

経営に関する諸情報

企業理念	知る安心も、集う楽しさも。 岩手の毎日と一緒に作るメディアです。
資本構成※	資本金:1億円 発行済株式総数:52万株
主要株主※	1/10を超える議決権を有する者とその者の議決権比率:該当なし 《大株主》 (株)岩手日報社 41,358株(7.95%) 鹿島建設(株) 40,500株(7.78%) IBC岩手放送共済会 35,986株(6.92%) (株)TBSホールディングス 34,000株(6.54%) (株)北日本銀行 25,900株(4.98%) (株)岩手銀行 25,900株(4.98%) みちのくコカ・コーラボトリング(株) 25,000株(4.80%) 株主総数:838名

役員構成※	代表取締役社長 常務取締役 常務取締役 取締役 取締役相談役 取締役(社外) 取締役(社外) 取締役(社外) 取締役(社外) 取締役(社外) 取締役(社外) 常勤監査役	眞下 卓也 八木 宏樹 若林 高行 兼平 宗彦 鎌田 英樹 谷村 邦久 石塚 恭路 川村 公司 和泉 晃 横井 隆幸 菊地 文彦 近藤 敏行	(非常勤) みちのくコカ・コーラボトリング(株) 取締役相談役 (株)北日本銀行 取締役頭取 (株)岩手日報社 代表取締役社長 (株)TBSテレビ 執行役員 JNN北海道・東北担当 鹿島建設(株) 執行役員東北支店長 (株)岩手銀行 取締役専務執行役員
役職員数※	役員 12人 職員 111人	(男12人(100%)、女0人(0%)) (男73人(65.8%)、女38人(34.2%))	
番組審議会 委員 (2026年7月1 日現在)	委員長 副委員長 郷右近 勤 小原 透 檜村 大輔	田代 高章 熊谷 志衣子 龍澤 尚孝 高橋 司 柴田 千春 繁田 奈菜子 小原 透 檜村 大輔	岩手大学教授 鑄金工芸家 学校法人龍澤学館理事長 全農岩手県本部長 第一商事(株)社長 繁田園茶舗取締役 日本茶インストラクター (株)岩手日報社執行役員 論説委員会論説委員長 (株)岩手銀行取締役常務執行役員 NTT東日本(株)岩手支店長
自社批評番組	番組名： 放送日時：	番組審議会だより 番組審議会開催後に随時放送	

財務情報	【貸借対照表】		(2026年3月31日現在)
	《資産の部》		(単位: 千円)
	流動資産		2,016,994
	固定資産		4,419,829
	資産合計		6,436,823
	《負債の部》		
	流動負債		746,494
	固定負債		1,594,091
	負債合計		2,340,586
	《純資産の部》		
	株主資本		3,840,789
	資本金		100,000
	資本剰余金		160,000
	利益剰余金		3,580,789
	評価・換算差額等		255,447
	純資産合計		4,096,237
	負債・純資産合計		6,436,823
	【損益計算書】		(2025年4月1日～2026年3月31日)
			(単位: 千円)
	売上高		3,739,021
	営業利益		69,092
	経常利益		71,490
	当期純利益		116,065

※ 2026 年 6 月 30 日現在

取締役会に関する情報

取締役会開催状況	年 5 回(2025 年 6 月 19 日～2026 年 6 月 18 日)
取締役会における社外 取締役の出席状況	取締役 谷村 邦久 5 回 取締役 石塚 恭路 3 回 取締役 川村 公司 5 回 取締役 石川 健正 4 回 取締役 和泉 晃 5 回 取締役 横井 隆幸 4 回
取締役会における社外 取締役の発言状況	取締役 谷村邦久氏、石塚恭路氏、川村公司氏、石川健正氏、 和泉晃氏、横井隆幸氏は、各々企業の経営に携わっている見 地から意見を述べるなど、取締役会の意思決定の妥当性・適正 性を確保するための助言・提言を行っております。